

田んぼの一年

宗道小学校 四年 村田 隼人

ぼくの家の近くには田んぼがあたり一面広がっています。春、夏、秋、冬、たくさんの音を聞かせて、たくさんの方の景色を見せてくれます。ぼくは田んぼが聞かせてくれる音が、田んぼが見せてくれる景色が、大好きです。

春、田んぼをうるおす水のせせらぎが聞こえてきます。美しい水のせせらぎを聞くと、心がちびちびと嬉しくなります。イネは、まだ田植えをし

たばかりで小さいため、まるで小川が整列をしていくかのようでもかおしいです。毎年、この時期にはスクスク成長して、おいしいお米になる、とほしとねがう。田んぼを見えます。

夏は、たくさんの方が聞こえてきます。カエルの大合唱、風に吹かれる稲の音です。夜、まどを開けるとカエルの鳴き声があふれないうらいうらと感えますが、カエルの大合唱を聞いてると心がどります。風に吹

れ、さらさらといネがこすれあう音は、ぼく
をとともやあかかな気持ちにさせてくれます。
イネは、グングン成長してぼくのひざの高さ
より少し高くなり、線がおりしげっこきます。
グングンと成長してりいイネを見ると、ぼく
も負けずにグングン成長しようという気持ち
になります。

秋、風がイネのほをやさぶるワサワサいう
音が聞こえてきます。ワサワサといねのほが
風にゆれる音を聞いてみると、もうしゅるか

くの時期なのだと感じます。いねは黄金色
になり、あたりの一面がまるで黄金色のじゅう
たんのようになつていて、そのじゅうたんに
ね転がってあたいなと思えます。しゅるか
されたお米を食っているのがとても楽しみです。
冬、イネのしゅるかが終わって、水がなく
なった田んぼからは何の音も聞こえなくなり
ます。春、夏、秋と様々な音が聞こえていた
ので、何の音も聞こえてこない冬はさびしい
です。いつもは、茶色の土が見えていたため、

つめたしかたに感じがしますが、雪がふると
あたり一面が真っ白にまよ、キラキラとか
がけいていて、星のようできれいです。雪が
いった後の田んぼは水分をふくみ、少しだけ
温かくわらかい感じがしました。

このように、一年間で田んぼはたくさん
音を聞かせ、たくさん景色を見せてくれます。
そして、春、夏、秋、冬と季節はあつと
いう間にすぎで、また新しい田んぼの一年が
始まっていきます。いねを育てる作業は毎年

変わりますが、田んぼは年によつて少しす
つちがう音を聞かせて、少しずつちがう景色
を見せてくれます。だからぼくは、田んぼが
大好きです。これからもずっと、美しい田ん
ぼをながめていきたいです。十年先も、二十
年先も、何十年先もこの美しい景色が、美し
い音が、美しい自ぜんがフブリエいてほし
いです。